Institute for Clinical Research
National Hospital Organization Kure Medical Center/Chugoku Cancer Center

NEWS

独立行政法人　国立病院機構　呉医療センター・中国がんセンター

臨床研究部ニュース

広島県呉市青山町 3-1 TEL 0823-22-3111
http://www.kure-nh.go.jp
発行責任者　臨床研究部長　谷山　清己

第2回呉国際医療フォーラム(K-INT)特集号

THE 2nd KURE INTERNATIONAL MEDICAL FORUM(K-INT) IN 2009 July 24,25,26

第２回 K-INT 集合写真

2009.9
vol.2

CONTENTS

第２回呉国際医療フォーラム大会長挨拶 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
国際学会参加報告
2nd K-INT ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
第２回 K-INT(呉国際医療フォーラム)と国際交流の概説 ・・・・・・・・・・ 9
研究部紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
御礼 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
編集後記 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

挨拶

Greeting

第２回呉国際医療フォーラム　会長挨拶

Message from The President
President of the 2nd K-INT
Wataru KAMIIKE, M.D., Ph.D.
Clinical Professor

第２回 K-INT 会長　上池　渉

組織委員会を代表して、2009 年 7月24日から26に広島県呉市で開催される第2回呉国際医療フォーラム(the Second Kure Medical International Forum, K-INT)に皆様をお招きできることを嬉しく思います。

この学会は、国立病院機構呉医療センター・中国がんセンターの研修センターで開催されます。プログラムには、アジアにおける周産期医学に関する話題が含まれており、共通の興味・話題を有する参加者の方々が、将来的な連携につながるような実り多い討論ができることを願っています。

呉は世界的に有名な平和都市である広島に近接しています。病院からは、呉市を見渡す素晴らしい眺めや呉鎮守府などの史跡をご覧いただけます。また、呉海事博物館や大和ミュージアムでは、呉の歴史だけでなく、日本の近代化に寄与した造船や製鋼における科学技術をご覧いただけます。また、世界文化遺産の一つである宮島も訪れていただけるでしょう。われわれは、第２回 K-INT が実り多い学会となりますことを心より祈っています。

第２回呉国際医療フォーラム　開会式

呉市副市長

呉市の医療の現状についての説明があり、K-INT 開催に対する高い評価をいただきました。

呉市医師会長

呉市の医療の現状についての説明があり、呉で国際学会が開催されることで、呉の医療がさらに発展することを願うとのお言葉をいただきました。

谷山臨床研究部長

第１回 K･INT の紹介と K･INT 設立の意図（地域医療活性化、国際医療人育成と当センター発展）について報告しました。

国際学会報告

Meeting Reports

7 月 25 日　9:30 - 11:10

“Anesthetic Management for the Obstetric Patients”

Chaired by Masashi KAWAMOTO, M.D., Ph.D.

セッション名; “産科患者のための麻酔管理”

座長　広島大学大学院医歯薬学総合研究科麻酔蘇生学講座教授
河本　昌志

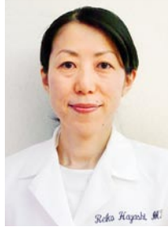
良い麻酔管理は質の高い産科の健康管理に必要である。麻酔専門医は産科医、助産師、小児科医および病棟、手術室、NICU の専門看護師からなるチームにおいて重要な役割を担う。昔から行われているような帝王切開における麻酔だけでなく、麻酔専門医は子癇前症などの妊娠に関連する危機的状態の急性管理にも関わる。麻酔管理はまた合併症を併発する患者のケアにも重要である。これらの管理のうち、麻酔専門医による硬膜外鎮痛や麻酔は帝王切開だけでなく普通分娩において新生児にほとんど影響を及ぼさないもっとも効果的な鎮痛方法である。このセッションの目的は、マラヤ大学病院、埼玉医療センター、広島大学病院、田中ウィメンズクリニック、呉医療センターにおける最近の産科麻酔について紹介する。最新治療における問題点とより良い産科ヘルスケアサービスのための麻酔管理についても討論する。

9:35 - 9:50

Spinal Anesthesia for Caesarian Section: Comparisons Among Currently Available Intrathecal Local Anesthetics in Japan.
Katsuyuki MORIWAKI, M.D., Ph.D.
帝王切開の脊髄くも膜下麻酔による血圧低下—等比重と高比重局所麻酔薬の比較
国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター麻酔科科長、副院長
森脇克行

帝王切開手術に広く用いられる脊髄くも膜下麻酔（以下脊椎麻酔）では、しばしば血圧の低下が生じる。等比重ブピバカイン脊椎麻酔と高比重テトラカイン脊椎麻酔で、収縮期血圧・心拍数について、後ろ向きに調査し両者を比較したところ、等比重ブピバカインでは脊椎麻酔開始５分後の収縮期血圧が高比重テトラカインに比べて有意に高く保たれていた。また、無作為化対照試験で、2.4mL の等比重と高比重のブピバカインを用いた脊椎麻酔で、収縮期血圧と心拍数、昇圧剤の使用量を比較した結果、等比重群では昇圧剤の使用量が有意に少なく、投与５分後の血圧低下が有意に小さいことが明らかになった。これらの結果から、高比重局所麻酔薬に比べ、等比重ブピバカインが帝王切開に用いる脊椎麻酔薬として適している可能性が示唆された。

9:50 - 10:05



Epidural Analgesia for Labor and Delivery
Reiko HAYASHI, M.D., Ph.D.
硬膜外麻酔による無痛分娩
田中ウイメンズクリニック　林　玲子

硬膜外麻酔分娩では意識を保ったまま、痛みはなく子宮収縮を感じながら出産が可能である。また、万が一帝王切開が必要になった場合も、引き続き硬膜外麻酔を用いてより迅速に緊急帝王切開術に対応可能である。
専門の麻酔科医により管理される場合、麻酔合併症による困難な状況に陥る事も稀である。
無痛分娩を希望する産婦が増える時代を迎え、産科麻酔に興味を持つ周産期医療従事者事も増える事を願ってやまない。

10:05 - 10:20

Current Status of Obstetric Anesthesia in Hiroshima.
Hiroshi HAMADA, M.D., Ph.D.
広島における産科麻酔の現状
広島大学大学院医歯薬学総合研究科麻酔蘇生学講座准教授　濱田　宏

産科医不足を背景に広島県内でも産婦人科の集約化が行われている。その結果、麻酔科医の業務にどのような影響が出ているかを知ることをひとつの目的に、広島県内の主要な病院の麻酔科を対象にアンケート調査を実施した。麻酔業務全体の中で帝王切開は 3.3~11.4%を占めていた。集約化の対象となった病院では、帝王切開のみならず婦人科疾患の手術件数もかなり増えており、すべての病院で麻酔科医の負担は増えたとの回答であった。

10:20 - 10:35

Current Practice of Obstetric Anesthesia in Saitama Medical Center and Japan
Katsuo TERUI, M.D., Ph.D.
日本と埼玉医科大学総合医療センターにおける産科麻酔診療の現状
埼玉医科大学総合医療センター産科麻酔科准教授　照井克生

日本で出産に麻酔科医が関与すること少なく、硬膜外無痛分娩率は 2.6%、麻酔科医が担当する帝王切開割合は 42%にすぎない。分娩中の母児の急変には麻酔科医がいつでも迅速に対応できる体制が本来は望ましく、当センターでは産科麻酔科を中心として 24 時間体制での硬膜外無痛分娩提供、産科専用手術室での緊急帝王切開、分娩室や救命救急センター処置室での院内外発症の産褥出血の麻酔と全身管理などに対応している。

10:35 - 11:00

Anesthetic Management for the High Risk Obstetric Parturient
Yoo Kuen CHAN, MBBS, FFARCS
ハイリスク妊産婦の麻酔管理
マラヤ大学医学部麻酔科学教室教授 ユー・クウェン・チャン

ハイリスク妊産婦とは、不適切な管理が行われると妊婦自身あるいは児の生命が危険に曝されるような患者である。合併症や死亡率の統計から、妊娠関連高血圧、出血、塞栓症、心疾患などが、ハイリスク妊産婦像として浮かび上がってくる。統計に表れるものは、その氷山の一角に過ぎないが、世界中でハイリスク産科妊婦のこの臨床像は同様である。産科病棟では、24 時間なんら警告なく急変によってハイリスク妊産婦が発生する可能性がある。従って、待機的なハイリスク妊産婦への対応システムだけでなく、緊急事態に備えた 24 時間の十分な治療体制が必要である。これらの妊産婦を治療する麻酔科医はよく訓練されている必要がある。ハイリスク妊産婦の麻酔管理の目的は、リスクのレベルを問わず母児ともに健康なアウトカムを得ることである。

7 月 25 日　13:00 - 14:40

“Current State of the Perinatal Medicine in Asia”

Chaired by Yoshiki KUDO, M.D., Ph.D.
セッション名; “周産期における産科”
座長　広島大学大学院医歯薬学総合研究科産婦人科学講座教授
工藤　美樹

日本における早産の発生率は、1980 年の 4.1%から 2004 年における 5.7%へと顕著に増加している。また、2500g 以下の低出生体重児も顕著に増加している。日本では毎年、約 62,300 の命が出産予定日よりも早く生まれている。早期陣痛の原因についてはあまりよくわかっていないが、早産の負担についてはより明らかになってきた。早産は新生児死亡や小児の長期的な神経障害に関わる。このシンポジウムでは、広島における周産期医療、超音波検査の発達、低出生体重児の臨床症状をトピックスとして紹介し、インドネシアおよびタイの周産期医療の現状にふれる。

13:05 - 13:30

Perinatal Medicine in Indonesia
Yuditaya PURWOSUNU, M.D., et al.
インドネシアにおける周産期医療の現状
Cipto Mangulusumo 中央国立病院 産婦人科
Yuditaya PURWOSUMU et al

インドネシアにおける周産期死亡率と母体死亡率（１０万人に対し約２５０）は東南アジア諸国の中でも高い。特に私が勤務するジャカルタの Cipto Mangukusumo 中央国立病院において周産期死亡率、母体死亡率が共に高い。われわれの病院で扱う妊婦は、そのほとんどが、インドネシア国内の遠隔地からの紹介患者である。紹介患者は、その地域で必要最低限の周産期管理をうけることが困難なことが多い。また、専門的な研修を受けた産婦人科医師（インドネシア全体で現在７００名程度）や助産師が関与する分娩が少ないため周産期死亡率、母体死亡率が高いものと考える。今後、政府などが中心となり、周産期死亡、母体死亡率を減少させる施策が重要である。
中央国立病院の周産期部門では、８０００人以上の妊婦が超音波スクリーニング検査をうけている。胎児の奇形として見つかるものは、頭部、腹部、四肢、心臓など様々なものがある。インドネシアには医科大学が７つしかなく、今後もわれわれの周産期部門が重要な役割を果たす必要がある。

13:30 - 13:45

Perinatal Medicine in Hiroshima –Especially Premature Birth-
Tomoya MIZUNOE, M.D., et al.
広島における周産期医療―早産について―
呉医療センター・中国がんセンター　産科科長　水之江知哉

日本では 1985 年に 4.1%であった早産率が 2006 年には 5.7%に増加し、広島県でも同様の傾向が続いている。28 週以前の早産や、低出生体重は周産期死亡の大きな原因の一つであり、早産を防ぐことは産婦人科医にとって重大な使命である。早産の原因は様々でるが、上行感染によって生じる絨毛羊膜炎は児の出産後の状態にも影響を与えるため、妊娠中の細菌性腟症の管理は重要である。一方、早産防止に力を注ぐだけでなく、出生した早産児の対応も重要である。産婦人科医は減少を続けており、早期早産の対応を一施設ですべて行うことは困難である。広島県では周産期ネットワークを形成しており、呉医療センターは２次施設で、呉地域の１次施設で対応が困難な症例を受け入

れるとともに、28 週未満で分娩となる症例を 3 次施設である県立広島病院へ搬送している。周産期ネットワークの整備と稼働がスムースに行われていることが広島県の周産期死亡率が全国でも有数の結果である大きな要因と考える。

13:45 - 14:00

Usefulness of the Tei Index in Right Ventricle to Evaluate Fetal Cardiac Function
Kenjiro DATE, M.D., et al.
胎児心機能評価の指標としての右室 Tei index の有用性
県立広島病院産科婦人科部長　　伊達健二郎　他

胎児心不全をきたす疾患における胎児心機能評価は、出生後の管理の上で極めて重要であるため、胎児心不全の指標としての右室 Tei index の有用性を検討した。対照群の Tei index は妊娠週数に関わらず 0.5 以下であった。胎児心不全の増悪に伴って右室 Tei index が上昇することから、右室 Tei index は胎児右室機能を評価する上で重要な指標になると考えられた。

14:00 - 14:15

Short and Long Term Prognosis of Extremely Low Birth-Weight Infants in Hiroshima Prefectural Hospital
Rie FUKUHARA, M.D., et al.
県立広島病院における超低出生体重児の短期予後と長期予後
県立広島病院　新生児科 福原里恵 他

2004～2005 年に当院 NICU に入院した 42 名の超低出生体重児の予後について検討した。生存率は 93%で、頭蓋内出血 2 名、脳室周囲白室軟化症 2 名、9 名が未熟児網膜症の治療を受けたが、弱視や全盲となった児はいなかった。3 名に在宅酸素療法行った。
重度の精神運動発達遅延をきたした 2 名以外の 33 名に 3 歳時発達検査を行った。DQ＞85 は 11 名、70～84 は 13 名、＜70 は 11 名であった。超低出生体重児の生存率は高く、重篤な後遺症を持つものは少なかった。

14:15 - 14:40

Fetal Echocardiography: from 2-Dimentional to 4-Dimentional Ultrasound Scanning
Surasak JANTARASAENGARAM, M.D.
胎児心エコー検査：2D から 4D へ
ラジャビチ病院母子医療部　シュラサーク・ジャンタラサエンガラム

先天性心疾患は周産期死亡率に影響を与える主要な胎児奇形であり、その出生前診断によって、早期に家族へのカウンセリングができ、分娩前後の治療方針検討に有用である。胎児心臓の検査においては、従来の 2D 超音波走査による断面像が基本となり、スクリーニングには、腹部横断面、4 腔断面像、左右心室の流出路の描出が必要である。さらに詳細な解剖を評価するためには他の標準断面を用いた 3 次元的な再構築が必要である。しかし、適切な胎児心断面を描出するには特別なトレーニングとかなりの経験を要する。超音波診断の進歩の中で、4D 超音波と STIC(spatio-temporal image correlation)法の使用によって心臓の動きを伴った胎児胸部のボリュームデータセットを創り出すことが可能となった。これによって、検者の走査技術に関係なく適切な診断面を表示することができる。また、このボリュームデータセットは保存し、遠隔地での分析やコンサルテーション、教育に使用することができる。従って、4D 超音波走査は先天性心疾患の出生前診断におけるスクリーニングや診断、教育過程において有用となる可能性がある。

7 月 25 日　15:00 - 17:50

“Pediatrics for the Perinatal Diseases”

Chaired by Masao KOBAYASHI, M.D., Ph.D.

セッション名; “周産期における小児科”
座長　中国労災病院小児科第二小児科部長
小西　央郎

近年日本において、出生数は減少しているが、ハイリスク乳幼児の数は増加している。ハイリスク乳幼児の割合は高いが、その予後診断については非常に進んでいる。結果として、日本の新生児死亡率はこの 20 年あまり世界の中で最も低いレベルが続き、日本人の平均寿命も非常に改善した。特に広島県では、日本で最も低い新生児死亡率である。
新生児ケアの改善は、薬物療法と適切な診断法の発達だけによるものではなく、例えば、疾患の変化、新生児輸送システム、新生児ケアユニット環境、先天性疾患の回避など様々なファクターによって影響を受ける。このセッションでは、日本、シンガポール、タイにおける最近の新生児ケア問題について様々な視点から討論する。

15:05 - 15:20

Clinical Care of Patients with Severe Chromosomal Disorder
Kiyotake OGURA, M.D.
重症染色体疾患を伴う児への医療介入
国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター　小児科　小倉　聖剛

重症の染色体疾患を伴う新生児が生まれた場合、医療従事者は、児にとっての最良の治療や、家族のサポートなどを検討していく必要がある。「重篤な疾患を持つ新生児の家族と医療スタッフの話し合いのガイドライン」に基づき当院で診療を行った、18 トリソミーの 2 例、13 トリソミーの 1 例を報告する。自験例は 3 例とも在宅医療に移行し、患児の QOL 改善を認めた。

15:20 - 15:35

Providing New Clinical Information System in NICU
Nakao KONISHI, M.D. Ph D.
NICU における新しい臨床情報システムの導入
中国労災病院小児科第二小児科部長　小西　央郎

近年、医療 IT の充実に伴い、Electrical Health Record (EHR)が発達してきた。EHR は臨床情報システム(CIS)と病院情報システム(HIS)に分類される。 CIS は臨床上のデータ管理の点で充実しているが、物品管理、医事管理面が弱い。一方、HIS は物品管理、医事管理に優れるが、臨床情報の取り扱い面が弱い。 NICU における CIS では新生児の急速に変化するに呼応するために、迅速な臨床現場の治療決定に迅速に呼応する機能とそれをサポートする機能が要求される。我々は CIS と HIS の双方の利点を駆使して NICU での診療支援を行うシステムを構築したので報告する。

15:35 - 15:50

The Ten-Year Experience of Tandem Mass Spectrometry-Based Newborn Screening in Hiroshima Area of Japan
Go Tajima, M.D. Ph D. et al.
広島県におけるタンデムマス新生児スクリーニング 10 年間の経験
広島大学大学院医歯薬学総合研究科小児科学講座助教　但馬剛

タンデムマス新生児スクリーニング（新マス）は有機酸・脂肪酸代謝をはじめとする多様な先天代謝異常の検査法である。1999 年 4 月ー2009 年 3 月に広島県内出生の新生児

総数 271,491 人中 201,270 人（74.1%）が新マスを受検。要精検 27 例中 16 例（1/12,579 人）を罹患と診断した。MCAD 欠損症など乳幼児突然死の予防効果が明らかな症例を含め、発見症例の経過は全般的に良好であった。

15:50 - 16:15

Organization of Perinatal Services in Singapore
Jiun LEE, MBBS.
シンガポールでの周産期サービス
シンガポール国立大学 新生児科 ジウン・リー

2009 年　シンガポールの人口は約 450 万人で、年間 39,000 の出生がある。NICU を有する分娩施設が 9 つあり、2 つが高度医療施設である。妊婦検診は公立・個人病院が半々で行い、分娩は主に病院で行う。新生児は生後 1 年を公立病院で、その後を個人や民間病院で検診する。周産期死亡率は、1973 年の 20/1,000 から、2000 年の 4/1,000 と減少した。本邦の周産期医療の変遷や問題点を述べた。

16:15 - 16:40

Usin Patient Acuity to Determine Nursing Manpower Needs in the Neonatal ICU
Soke Yee LEE, BSc
NICU における看護力の必要度を決定する為に Patient Acuity を用いること
シンガポール大学 NICU 看護部　ソーク・イー・リー 他

従来、シンガポールでは衛生部の指示に基づき患者数に応じた看護士の配置を行ってきた。しかし、実際に患者が必要としている看護力を加味した Trendcare Acuity system という新しい方法を用いることで、より患者の要求を満たす看護の労働スケジュールを再構築し、効率的な労働と高い満足を得ることができる。

16:40 - 17:05

Prophylaxis of Symptomatic Patent Ductus Arteriosus with Oral Ibuprofen in Very Low Birthweght Infants
Varaporn SANGTAWESIN, M.D., et al.
極低出生体重児における経ロイブプロフェン療法による症候性動脈管開存症の予防
Queen Sirikit 小児国立病院新生児科科長
バラポン・サングタヴェスティン　他

極低出生体重児の症候性動脈管開存症の予防に関して、経ロイブプロフェン療法がインドメタシン療法よりも少ない用量・副作用で同等の予防効果を持つ可能性がある。自験例 26 例で前向き二重盲検 RCT を行った。経ロイブプロフェン療法は有意な副作用無く、インドメタシン療法と同等の効果を示した。今後の治療選択肢の一つとして、検討がなされるべきである。

17:05 - 17:30

Breast Feeding Movement in Thailand: Promising A Brighter Future
Siraporn SAWADIVORN, M.D., Ped.
タイでの母乳栄養運動
Queen Sirikit 小児国立病院院長 シラポン・サワディボーン

タイでは母乳栄養の育児率は低くなっていた。しかし、ここ数年母乳栄養が見直され、育児の率と質が増加した。現在では母乳栄養運動はより多くの関心と支持を受けている。タイで母乳栄養運動が成功した原因を述べ、現在のタイでの母乳栄養推進の活動を調べた。

今後よりよい母乳育児の発展のためには、保健省による連続的な運動が必要である。

第 2 回呉国際医療フォーラム　閉会式

閉会挨拶

Vice-President of the 2nd K-INT
Takashi SUGITA, M.D., Ph.D.

第 2 回 K-INT 副会長　杉田　孝

第 2 回呉国際医療フォーラムに多くの方の参加をいただき、成功裏に進行してまいりましたが、いよいよ閉会する時がやってきました。

今会場にいる皆様、また本会を成功に導いてくれましたすべての参加者の皆様に心よりお礼を申し上げます。また本会の円滑な運営に係わった事務局の皆様にも感謝いたします。海外から来日された方々には、無事帰国されることを祈っています。

来年の第 3 回呉国際医療フォーラムで、あるいはまたいつの日か皆様と再会できることを願ってやみません。皆様、どうもありがとうございました。

第２回 K-INT(呉国際医療フォーラム)と国際交流の概説

K-INT 事務局長（臨床研究部長）谷山清己

平成２１年７月２４（金曜日）、２５日（土曜日）の２日間、当センター内地域医療研修センターにおいて、第２回 Kure International Medical Forum (K-INT: 呉国際医療フォーラム)を開催しました（会長：上池　渉当センター院長)。２日間の会期中参加者総数は４１０人と第１回総数２５７名を凌駕する盛況でした（本ニュース表紙参照)。

７月２４日（金曜日）の開会式では、廣津副市長（小村呉市長代理）と豊田呉市医師会長から日本語で祝辞をいただきました。その後の発表は、公用語の英語を使用しましたが、会議進行アナウンスには英語と日本語の両方を使用しました。

祝辞の後は、上池会長が開会宣言と歓迎の挨拶を述べました（図１)。続いて谷山が K-INT の説明を行った後、看護学生による応援団披露があり、更に、市民ボランティアによる舟歌やダンスの披露も行われました。招待客を交えた混合ダンスで終えた開会式は大変盛り上がりました（図２)。

地域医療活性化、国際医療人育成と当センター発展を目的として始まった K-INT の第２回の主テーマは「アジアにおける周産期医療」であり、７月２５日（土曜日）は、朝から夜まで熱心な討論が続きました。午前の部では、広島大学大学院医歯薬総合研究科麻酔蘇生学講座河本昌志教授が座長を勤められ、“産科患者のための麻酔管理”が副テーマでした。ランチョンセミナーでは、埼玉医科大学総合医療センター産科麻酔科照井克生准教授が“産科麻酔の最近の進歩”と題した講演を行いました。午後の第一部では、“周産期における産科”が副テーマとなり、広島大学医歯薬学総合研究科産婦人科学講座工藤美樹教授が座長を務められました。また、午後第二部の副テーマは“周産期における小児科”であり、中国労災病院小児科小西央郎医長に座長をお願いしました。地域医療代表する発表者として中国労災病院、県立広島病院、広島大学病院から産科医や小児科医が参加し、また、海外からはシンガポール、タイ、インドネシア、マレーシアから医師、臨床看護師を招きました（図３)。当センターからは、森脇副院長・手術部長、水之江研修部長・産科科長、小倉小児科医が発表しました。最後に、杉田副院長が次回での再会を願いつつ閉会を宣言しました。

K-INT 開催に合わせて、海外交流も進みました。本年２月に姉妹病院縁組みを行ったタイ国ラジャビチ病院からは、産科、新生児科に係わる医師、看護師ら総勢１１人が訪れ、学会参加以外に当センターの施設見学を行い、多くの部署で国際交流が行われました（図４)。今回、海外からの女性参加者には、看護学生が準備した浴衣に着替えてもらって全体写真を撮影したところとても喜んでもらいました（本ニュース表紙参照)。７月２６日（日曜日）には看護学生を交えた自由討論会を宮島で開催しました（図５)。海外からの参加者は、この企画を自国でも是非取り入れたいと、学生教育を兼ねた自由討論会を高く評価してくれました。

第 2 回が成功裏に終わった K-INT では、運用もなんとか軌道に乗ってきた感じがあります。3 回以降もますます発展していくように願っています。

臨床研究部ニュース vol.2

図 1. 院長挨拶

図 2. 招待客を交えた混合ダンス

図 3. シンガポール大学 Lee 先生

図 4. 病棟での国際交流

図 5. 宮島集合写真

研究部の紹介・御礼

研究部紹介

研究補助員

児玉　陽子

腫瘍病理研究室ならびに
臨床研究部の研究全般にわたる
研究補助
特にバーチャルスライド

研究補助員

下畦　幹枝

腫瘍病理研究室ならびに
臨床研究部の研究全般にわたる
研究補助
特に子宮頸部細胞診液状検体作成

御礼

（国際的活動を中心とした臨床研究部への寄付金）

医療法人社団中川会　呉中通病院
院長　中川俊文殿
用途　臨床研究部発展のために

医局 OB 会
用途　研究全般支援

編集後記

第２回臨床研究部ニュースは、第２回 K-INT の特集としました。国内外多数の人の協力で第１回を凌駕する盛会となりましたことが紙面から伝わってくれば、本ニュースの企画は成功したと言えるでしょう。国際交流に関しても、県立広島病院の関係各位や当センター看護学校の熱心な協力があって心温まるものとなりました。紙面を借りて感謝申し上げます。また、これらは全て、K-INT 設立趣旨である「地域医療活性化、国際医療人育成と当センター発展」に沿ったものです。第３回臨床研究部ニュースは、本年の学術活動を、特に国際的な活動を中心にして紹介する予定です。ご期待下さい。

K.T.